『あたらしい皮膚科学：第 3 版』のトップページへ

図 20.30　扁平母斑（nevus spilus），点状集簇生母斑（speckled lentiginous nevus）

図 20.31　Becker 母斑（Becker's nevus）

図 20.32　貧血母斑（nevus anemicus）

表 20.2　カフェオレ斑と Becker 母斑の比較

レーザー療法が有効である．

2. 扁平母斑　nevus spilus

日本と欧米とでは本診断名の意味が異なる．日本においては，基礎疾患を有しないカフェオレ斑として用いられることが多い（**図 20.29**）．欧米では，淡褐色斑の上に小さな母斑細胞母斑が散在しているものを扁平母斑と称し，点状集簇性母斑（speckled lentiginous nevus）とも呼ばれる（**図 20.30**）．

3. Becker（ベッカー）母斑　Becker's nevus

同義語：遅発性扁平母斑

不規則な斑状の淡褐色色素斑が生じたのち，辺縁に新生した色素斑と融合，数～ 20 cm 大となる（**図 20.31**）．その数か月～数年後に多毛を生じることが多い．カフェオレ斑と病理組織学的に類似するが，剛毛を伴い真皮内に平滑筋線維の増生を認め，平滑筋過誤腫（p.388 参照）の一種とする考えもある．レーザー療法の効果はカフェオレ斑よりも高い（**表 20.2**）．

4. 貧血母斑　nevus anemicus

入浴や摩擦などによって周囲の皮膚が紅潮した際に，境界鮮明に蒼白部位が出現するもので，上胸部に好発する（**図 20.32**）．毛細血管の機能的障害（カテコラミン過敏症）といわれる．神経線維腫症 1 型や結節性硬化症に合併することがある．

▶ **脱色素性母斑**　→ 16 章 p.308 参照．